

# 雑 報

## 定例研究報告会の開催

(平成4年4月～6月)

〈回〉	〈月 日〉	〈報 告 題 目〉	〈報告者〉
1	4. 15	平成4年度研究計画報告	所長, その他
2	4. 22	東京都心地域における人口構造変化と居住地の変容	大江 守之
3	5. 6	住宅供給による人口回復効果に関する研究	大江 守之
4	5. 13	親族数分布に関する解析的モデル	鈴木 透
5	5. 20	地域出生力構造の変動	石川 晃
	"	将来の寿命ならびに死因構造	高橋 重郷
6	5. 27	山形県・鹿児島県の平均世帯主余命等の比較	山本 千鶴子
	"	最近の親子同居の動向	廣嶋 清志
7	6. 3	International Conference on "Family Formation and Dissolution : Perspectives from East and West" について	小島 宏
	"	International Conference on "The Peopling of the Americas" (Veracruz, Mexico 1992) について	西岡 八郎
	"	死亡発生日時のスペクトル解析	大場 保
8	6. 10	人口政策としての国際移動者の統合	小島 宏
	6. 17	年齢構造の変化と戦後の社会変動	伊藤 達也

## 資料の刊行

(平成4年4月～6月)

〈資料題名 (発行年月日)〉

○人口問題研究所年報 平成3年度 (平成4年4月)

## 日本人口学会第44回大会

日本人口学会 (会長：岡崎陽一) の第44回大会は、平成4年6月5日 (金) と6日 (土) の両日にわたり、明治大学大学会館において開催された。本大会は、明治大学の吉田忠雄教授を運営委員長として、同大学兼清弘之教授、安蔵伸治教授を委員とする大会運営委員会の多大な努力により、盛会に行われた。会員の参加は約150名にもなり、活発な討議がなされた。

本大会のシンポジウム、共通論題、自由論題の題名及び報告者は次のとおりである。

○シンポジウム

「出生率低下と日本の将来」

〈座長〉 吉田 忠雄 (明治大学)  
濱 英彦 (成城大学)

1. 女性の社会進出と出生率低下……………津谷 典子 (日 本 大 学)
  2. 出生率低下の社会経済的影響……………大淵 寛 (中 央 大 学)
  3. 出生率低下への政策的対応……………阿藤 誠 (人口問題研究所)
- <討論者> 安川 正彬 (明海大学)  
早瀬 保子 (アジア経済研究所)

○共通論題 [A部会]

「平均寿命はどこまで伸びるか」

- <組織者> 河野 稔果 (人口問題研究所)  
<座 長> 鈴木 継美 (国立環境研究所)
1. 人口学的観点から……………高橋 重郷 (人口問題研究所)
  2. 衛生統計学の観点から……………府川 哲夫 (国立公衆衛生院)
  3. 疫学的観点から……………重松 峻夫 (福岡大学)  
南條 善治 (東北学院大学)
- <討論者> 上村 一夫 (流通経済大学)  
大塚 友美 (日 本 大 学)

○共通論題 [B部会]

「90年センサス ―新しい人口動向を読む―」

- <組織者> 嵯峨座晴夫 (早稲田大学)  
<座 長> 三浦 由己 (駿河台大学)
1. 日本人口の構造変動 ―年齢, 結婚, 教育, 世帯― ……渡邊 吉利 (人口問題研究所)
  2. 労働力人口の動向と就業構造の変化……………藤田 峯三 (総務庁統計局)
  3. 人口移動と地域人口の動向……………大江 守之 (人口問題研究所)  
坂井 博通 (清泉女学院短期大学)
- <討論者> 小笠原節夫 (愛知教育大学)  
渡辺真知子 (嘉悦女子短期大学)

○自由論題報告

1. 地域出生力構造の変動……………石川 晃 (人口問題研究所)
2. 合計特殊出生率 (TFR) に基づく地域特性分析……………上原 浩人 (大阪府庁)
3. 産後母乳哺育の動向と出生力抑制効果について……………佐藤龍三郎 (国立公衆衛生院)
4. 死亡発生時のスペクトル解析……………大場 保 (人口問題研究所)
5. 世代マップによる疾病の世界像……………池田 一夫 (東京都立衛生研究所)  
倉科 周介 (東京都立衛生研究所)
6. ユニセフにおける「5歳未満死亡率」指標採用の意義……………丸山 博 (大阪経済法科大学)
7. 親族数分布に関する解析的モデル……………鈴木 透 (人口問題研究所)
8. 先史人口集団の拡散過程の人口学的シミュレーションモデル(応用例)……………正木 基文 (昭和大学)  
大塚柳太郎 (東京大学)  
大場 保 (人口問題研究所)
9. パプアニューギニアにおける農村―都市移住 :  
言語族を単位とした分析……………大塚柳太郎 (東京大学)
10. 開発途上国の経済開発と人口および環境問題……………大塚 友美 (日 本 大 学)
11. 韓国の人口変動と資本供給……………李 相蓮 (中央大学)
12. 中国の経済成長と労働市場……………尹 豪 (中央大学)
13. 都市内部における人口移動現象の発生メカニズム……………井上 孝 (秋田大学)
14. 多地域 Leslie 行列を用いた 47都道府県将来人口推計の試み……………南條 善治 (東北学院大学)  
重松 峻夫 (福岡大学)  
吉永 一彦 (福岡大学)
15. 結婚にともなう県間人口移動……………河邊 宏 (専修大学)  
カオリ リヤウ (マクマスター大学)
16. 大都市における高齢人口移動の要因……………大友 篤 (日本女子大学)  
吉田 成良 (エイジング研究総合センター)
17. 長男長女比率の変化と晩婚化についての考察……………原 俊彦 (北海道東海大学)
18. 長野県と山梨県の高い平均初婚年齢について……………坂井 博通 (清泉女学院短期大学)

19. 最近の親子同居の動向……………廣嶋 清志 (人口問題研究所)
20. 年齢別世代数別延べ人口の分布——人口構造の一分析——……………松下敬一郎 (龍谷大学)
21. 山形県・鹿児島県の平均世帯主余命等の比較……………山本千鶴子 (人口問題研究所)
22. 都市の女性のライフスタイル……………大内 修 (住友生命総合研究所)
23. 社会病理の地域構造——アノミー・インデックスによる分析——……………新田 功 (明治大学)
24. 経営人口学における事例研究——消費者と葬祭業——……………今井 孝平 (中央大学)
25. 世帯数の増加と住宅建設循環……………石 南國 (城西大学)
26. 賃金プロフィールに関する時系列的分析……………小川 直宏 (日本大学)
27. 奥会津地方における人口変動 (18~19世紀)……………川口 洋 (東京家政学院筑波短期大学)
28. 日本の前工業化期における世帯の特徴……………石原 正令 (関東学園大学)
29. 江戸時代後半期東北地方一農村における人口移動  
——宗門改帳の分析を通して——……………木下 太志 (江南女子短期大学)
30. 近世後期日本の乳児死亡……………鬼頭 宏 (上智大学)
31. 明治以降の日本の人口曲線 (4)……………篠崎 吉郎 (帝塚山大学)
32. ビジネス・デモグラフィーに関する一考察……………安藏 伸治 (明治大学)
33. 人口政策としての国際移動者の統合……………小島 宏 (人口問題研究所)
34. アルフレッド・ソーヴィの思想——その死を悼み——……………岡田 實 (中央大学)
35. 出生力転換について……………河野 稔果 (人口問題研究所)
36. 人口転換論再考……………黒田 俊夫 (日本大学総合科学研究所)

なお、明年の第45回大会は、東北福祉大学において開催される予定である。

(金子武治記)

## 日本人口学会関東部会第9回研究報告会

平成4年6月27日(土、午後2時—5時)、日本人口学会関東部会第9回研究報告会が駒沢大学学生会館において開催され、以下の報告があった。

座長 石 南國 会員 (城西大学)

報告者 稲葉 寿 会員 (人口問題研究所)

論題「結婚力と結婚出生力に基づく安定人口理論」

報告者 大友 篤 会員 (日本女子大学)

論題「高齢人口移動の転換——国際比較共同研究の成果から——」

稲葉会員は近年における日本の出生力低下、またその再生産力の変動を理解するために、結婚の次元を取り入れた動的人口モデルを定式化し、それにもとづく再生産指標を導くとともに初婚の遅れが期間出生力の低下をもたらす可能性の程度を例によって示した。大友会員は Andrei Rogers 教授 (コロラド大学) が中心となって行った高齢人口移動の国際比較研究のうち、第二次研究 (1989—1992) の成果、とくに日本における高齢人口移動の転換について報告した。出生・死亡における転換 (Vital Transition) とともに、移動における転換 (Mobility Transition) があったとする興味深い仮説が紹介された。

(稲葉 寿記)